表 令和6年12月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第98～106号	2日、6日、9日、13日、16日、20日、23日、27日、30日 16時00分	活発な噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石、火映の状況。23日07:29の爆発で噴煙が火口縁上3400mまで上昇、大きな噴石は7合目。噴煙の高さ3000m以上は10月18日（火口縁上4000m）以来。昭和火口では噴火及び火映は観測されず。 現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放出量は2000～3400[t/日]（17日、24日）で非常に多い。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS連続観測では、島内の基線で1月頃から山体収縮のわずかな縮みがみられる。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。 始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰報(速報)	23日 07時48分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	23日 08時01分	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第19～22号	6日、13日、20日、27日 16時00分	傾斜計、ひずみ計、GNSS連続観測で、2月頃から山体深部の膨張を示す変動を観測。JAXAの「だいち2号」観測データ（11/21）を用いた国土地理院によるSAR干渉解析で、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺で約1年間に衛星に近づく変動が見られるが、最近約1か月間では見られない。大地獄谷周辺の変動は、ごく浅部の膨張と考えられる。 火山性地震の発生頻度は、山頂付近で11月頃からやや高まっている。黒倉山付近は11月7日以降は低下した状態。 西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第97～105号	2日、6日、9日、13日、16日、20日、23日、27日、30日 16時00分	火山性地震は4月中旬以降増加した状態。3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は5月以降は停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は300～500[t/日]（3、10、17、24日）、2023年3月以前より多い。 引き続き、火口から概ね2kmに影響する噴火の可能性はある。
霧島山 (新燃岳)	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることを留意)	解説情報 第6号	2日 16時00分	火口直下の火山性地震は少ない状態で経過。他の観測データに特段の変化はない。
		解説情報(臨時) 第7～9号	3日 08時10分 3日、4日 16時00分	火口直下の火山性地震が2日から再び増加し3日22時までの24時間95回。その後減少。10月下旬以降火山性地震は増減を繰り返している。今後の情報に留意。
		解説情報 第10～11号	5日、6日 16時00分	火口直下の火山性地震が10月下旬頃から増減を繰り返し、前10日間の回数はやや多い状態。
		解説情報(臨時) 第12～15号	9日 08時00分 9日、10日、11日 16時00分	火山性地震の回数が増減を繰り返しやや多い状態で、増加している。火山活動がさらに高まる可能性があり、今後の情報に注意。
(次頁へ続く)				

(前頁の続き)	霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	12日 11時00分	火口直下の火山性地震が増加し、GNSS連続観測では11月頃から新燃岳付近の地下の膨張を示す基線のわずかな伸びが認められる。 新燃岳火口から概ね2kmの範囲で大きな噴石などに警戒。
			解説情報 第16～20号	12日 11時10分 12日、13日、20日、27日 16時00分	火口直下の火山性地震が増加し、GNSS連続観測では11月頃から新燃岳付近の地下の膨張を示す基線のわずかな伸びが認められる。霧島山深部の膨張を示す変化はない。監視カメラでは火口の噴煙及び周辺の地熱域に特段の変化はない。 11日の現地調査で西側斜面の割れ目のわずかな地熱域を確認したが、その分布に特段の変化はない。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第50～54号	2日、9日、16日、23日、30日 16時00分	火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。GNSS連続観測では、山体の膨張を示す変化はない。 長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続き、火口周辺に影響する噴火の可能性はある。	
口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第94号	5日 17時00分	古岳火口付近浅部で火山性地震が増加。遠望観測及び地殻変動観測では、特段の変化はない。	
		解説情報(臨時) 第95号	6日 05時55分	古岳火口付近浅部で火山性地震が増加。6日05時までの24時間で24回。3～5日の現地調査では前回と特段の変化はない。火山活動がさらに高まる可能性がある。今後の情報に注意。	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	6日 06時20分	古岳火口付近浅部で火山性地震が増加。6日06時までの24時間に30回。火山活動が高まっている。火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性はある。	
		解説情報 第96～103号	6日 07時15分 6日～9日、13日、20日、27日 16時00分	古岳火口付近浅部の火山性地震は概ね多い状態。7～9日の現地調査では、古岳火口周辺及び新岳火口西側割れ目付近の地熱域に特段の変化はない。18～20日の現地調査で、古岳火口で火口縁をわずかに越える白色の噴煙を観測した。火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は少ない状態(東京大学大学院理学系、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁による)。GNSS連続観測では2023年11月以降、山体の膨張を示す変動は認められない。	
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第55～59号	2日、9日、16日、23日、30日 16時00分	御岳火口で噴火活動が継続。爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石の飛散。集落(火口から南南西3.5km)で時々降灰あり。火山性微動は主に噴火に伴って発生。GNSS連続観測では、島の西側深部のマグマ蓄積量増加と推定される変動はない。長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。	
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。	
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。	
御嶽山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1、2号	25日 14時00分 27日 16時00分	12月中旬以降、山頂付近で微小な火山性地震の発生頻度がやや高い状態。前24時間回数は10回(21日及び25日)。火山性微動はない。傾斜計やGNSS連続観測では関連の地殻変動は認められない。今後の活動の推移に留意。	

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 岩手山、浅間山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表している。口永良部島では、6日8時に発表を開始した。